

科目 看護学概論
 授業科目の区分 専門分野 I
 履修対象 1年 前期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師
 授業概要

看護学を学ぶ学生が最初に学習する専門科目であるが、永遠に「看護とはなにか」を追求し続ける学問でもある。看護学の全体の基本内容を含み、看護の本質について看護観、人間観、世界観を形成する基礎とする。
 職業としての看護はサービス業である。安全で安楽、その人の自立を支援する看護サービスの本質は本校の教育理念である「人道」とも関連することを学ぶ。

回	項目	内容	方法
1 (2時間)	看護学への導入	1. 本科目のカリキュラム全体の位置づけ 2. 看護学概論は何を学ぶのか 学び方 3. 看護のイメージ 4. イメージマップの書き方 5. 看護の語源・原点	「教育課程」使用 講義 演習 イメージマップ
2 (2時間)	看護の対象	1. 人間についてイメージマップ 2. 「人」と「ヒト」 3. たくましく、うまく、よく、生きる人間 マズローのニード論 4. 生活者としての人間 5. 生涯発達しつづける存在としての人間 6. 看護の対象としての家族・集団・地域	講義 演習 イメージマップ
3 (2時間)	健康と生活	1. 健康のとらえ方 2. 障がいのとらえ方 3. 社会の変化と健康観の変化 4. 人々の生活と健康に関する統計	講義 演習
4 (2時間)	看護の本質	1. 臨地実習の体験から考える 2. 看護の定義 3. 役割と機能 4. 看護理論 5. 変化している看護	講義 演習
5 (2時間)	職業としての看護	1. 職業としての看護 2. 保健師助産師看護師法 3. 免許を持つということ (専門職に就くということ) 4. 看護における倫理 5. サービスとしての看護	講義 演習 次回グループ・ワークの 説明
6 (2時間)	保健医療システムと看護	保健医療システムと看護 グループワーク テーマ: 看護職者のキャリア開発 地域包括ケアシステム 看護職の役割拡大 看護サービス 他国の看護 ある時代の看護 等	演習
7 (2時間)	保健医療システムと看護	グループワーク発表 (ジグソー)	演習
8 (1時間)	看護のものさし	看護であること、看護でないこと 看護実践を考える時の「看護のものさし」に ついて理解する 看護理論	講義 演習

発展科目: 基礎看護学 専門分野 II 統合分野
 テキスト等: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 他
 看護者の倫理綱領 日本看護協会
 看護覚え書き フロレンス・ナイティンゲール 日本看護協会出版会
 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会
 成績評価: 試験、レポート、グループワーク、参加度

科目 看護の実践哲学
 授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学
 履修対象 3年 前期 (30時間)
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師
 授業概要 実習での体験を踏まえて、看護の本質について思考し、自己の人間観、看護観、世界観を確認する。
 人道と人権・看護・ケアリングの本質は共通することを身をもって実感し、赤十字看護師の使命と役割を理解する。

授業計画(前期)

回	項目	内容	方法
1 (2時間)	ガイダンス 「知っている」とは 1) 認識の構造 (具体・抽象・構造) 2) 「看護倫理」について	シラバスの説明 「看護の実践哲学」学び方 「知っている」とはどうかを認識論を用いて学習する 看護倫理について考える *実習場面で「もやもやしたこと」レポート	講義 演習
2 (2時間)	「看護倫理」について	臨地実習体験事例を用いて、「看護倫理」について学習する 「4ステップモデル」を理解し、グループワークで体験する。	講義 演習
3 (2時間)	「看護倫理」について	看護倫理グループワーク発表 ケーススタディについて導入	講義 演習
4 (2時間)	ケーススタディについて	臨地実習の体験を、ケーススタディにまとめることによって、リフレクションする方法を学ぶ	講義 演習
5 (2時間)	体験リフレクション (その1)	臨地実習の体験を、グループでリフレクションし 体験を共有しながら、ケーススタディをまとめる	講義・演習
6 (2時間)	体験リフレクション (その2)		講義・演習
7 (2時間)	体験から学ぶ(その1)	臨地実習体験を各グループ2名発表し、実習での体験を踏まえて「看護の本質」について考える *事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 4月
8 (2時間)	体験から学ぶ(その2)	臨地実習体験をテーマに沿って各グループ2名発表し、各テーマ、「看護の本質」について考える 例:自立に向けてのかかわり 退院にむけての看護 発達段階にあわせたかかわり 周術期の患者の看護 *事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 5月
9 (2時間)	体験から学ぶ(その3)		事例検討 7月
10 (2時間)	ジェンダーと看護	「ジェンダー」について、グループで学ぶ	講義・演習
11 (2時間)	現在の医療の動向について	「特定行為に係る看護師の研修制度」について等	講義・演習
12~15 (8時間)	体験リフレクション (その3)	ケーススタディを発表する *ケーススタディの発表を聞き、「ケーススタディでの学び」についてレポート提出	演習(発表) 8月30日

発展科目: 実習での具体的体験を、ケーススタディにまとめる過程を体験し、看護の本質について思考する。
 仲間のケーススタディを聞き、話し合うことによって自己の看護観を明確にする。
 統合実習、統合技術演習につなげ、看護観や看護の主要概念について話し合う機会を持つ。
 卒業後の看護実践につなげて欲しい。
国家試験後に「私と看護」に応募する。(12月頃に説明します)

テキスト等: 学生の体験
 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社 (ケーススタディ説明時持参)
 関西看護学生看護研究大会冊子 (ケーススタディ説明時持参)
 看護者の倫理綱領

成績評価: レポート、参加度(出席状況)
 とくに、ケーススタディ、「事例検討会での学び」「ケーススタディでの学び」のレポートを評価対象とします。

科目名 コミュニケーション
 授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師
 授業概要

人間にとってコミュニケーションは、水や空気、そして食物と同様に、他者とともに生きていくために不可欠な要素である。看護において、コミュニケーションは、あらゆる看護行為の基本であり、重要な看護技術の一つでもある。看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を習得する。対人関係を成立するためには、自己理解、他者理解が必要であり、リフレクションを通して深める。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義	①コミュニケーションの概念 ②コミュニケーションの基本原理、構造とプロセス	講義
2	コミュニケーションの種類	①言語的コミュニケーション ②非言語的コミュニケーション	講義 演習
3 4	自己理解・他者理解	①ジョハリの窓 ②リフレーミング ③他者理解 ④アサーティブ	講義 演習
5	効果的なコミュニケーション技術	①コミュニケーションに必要な能力 聴く、話す、理解する、感覚・感性を磨く ②コミュニケーションに必要な態度 挨拶、身だしなみ、プライバシー、対象者の尊重 ③コミュニケーションを妨げるもの	講義
6 7	コミュニケーションに関する本の紹介	個人ワークの発表、意見交換	演習
8	まとめ	①授業全体のまとめ ②プロセスレコードの概要と目的、記載方法	講義

発展科目:すべての看護実践の基盤となる

テキスト: メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③ 基礎看護技術

成績評価: 終講時試験

科目名 フィジカルアセスメント
 授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学
 履修対象 1年前期
 単位 1単位 30 時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要 観察・アセスメントの技術は、情報収集を行い対象の全体像を把握し看護を展開する
 上で、出発点となる重要な技術である。アセスメントは身体面だけではなく、対象の身体
 的・社会的・精神的な面をアセスメントし全人的に捉える必要がある。既習の解剖学・生
 理学の内容と結びつけながら、アセスメントの視点を捉えていく。そして、学んだアセス
 メント技術を活用できるよう、健康な生活者を対象に演習を行いながら講義を展開する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護における関心とは 観察とは ヘルスアセスメントとは	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における観察とは ・観察の方法 ・フィジカルアセスメントとは ・フィジカルアセスメントの進め方 ・フィジカルアセスメントの4つの基本技術 ・フィジカルアセスメントの意義、目的 	講義
2	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・全身の概観(外見や行動) ・精神機能 ・栄養状態 ・外皮系 ・頭頸部 	講義
3	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、耳、鼻、口 	講義
4	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・胸部 呼吸系 	講義・演習
5	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部 消化系 	講義・演習
6	バイタルサインとは 体温	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインとは ・体温とは ・体温に影響を及ぼす因子 ・体温の平衡 ・体温調節のメカニズム ・体温の異常 ・褥法と生理学的メカニズム 	講義
7	体温を調節する技術 褥法	<ul style="list-style-type: none"> ・褥法の効果と適応 ・冷褥法、温褥法の方法 ・冷褥法(氷枕、氷のう、氷頸) ・温褥法(温枕、温シップ) 	講義 演習
8	生命の徴候を観察する技術 脈拍	<ul style="list-style-type: none"> ・脈拍とは ・脈拍調節のメカニズムと影響因子 ・脈拍部位と測定時のポイント 	講義
9	生命の徴候を観察する技術 血圧	<ul style="list-style-type: none"> ・血圧とは ・血圧調節のメカニズムと影響因子 ・血圧測定時のポイント 	講義
10	バイタルサイン測定の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定 	演習
11	生命の徴候を観察する技術 呼吸	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸とは ・呼吸調節のメカニズムと影響因子 ・呼吸測定部位と測定時のポイント 	講義

12	呼吸を楽にする技術	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸のニーズに関するアセスメント ・障害の種類 ・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法 吸入・酸素療法 	講義
13	呼吸を楽にする技術の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法 	演習
14	事例で学ぼうフィジカルアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を設定し、アセスメントする ・発表 	演習 GW
15	看護を展開する技術	<ul style="list-style-type: none"> ・看護記録の機能と法的意義 ・看護記録の様式 (POS、フォーカスチャータリング、経時的叙述的看護記録) ・記録に関する留意事項 ・情報の伝達・共有の目的と留意事項 ・報告 	講義

発展科目： 臨地実習の看護実践の基礎となる
 テキスト： 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II 医学書院
 学研 看護技術プラクティス
 学研 フィジカルアセスメント完全ガイド(第3版) 藤崎 郁
 資料
 成績評価： 終講時試験

2021. 3 改訂

科目名 生活を整えるー1
(環境・安楽な体位・身体の清潔)
授業科目の区分 専門分野Ⅰ 基礎看護学
履修対象 1年次 前期
単位 1単位(30時間)
担当講師 専任教師
授業概要 1. 環境が人間に与える影響を理解したうえで、環境を調整する技術を習得する
2. 人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送る為に必要な援助方法を習得する
3. 対象の清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な清潔援助技術を習得する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	環境とは 環境調整技術	内部環境と外部環境 プライバシー保護と環境整備 換気と臭気の排除 室温と湿度の保持 騒音の原因と排除 採光と照明 環境調整の意義	講義
2	手洗いの意義と方法 手洗い方法の習得 リネンについて学ぶ	病室の環境整備 病床とベッド・ベッドメイキング 手洗いの実施(手洗いチェッカーの使用法) リネン類の名称・たたみ方・収納方法	講義 演習
3	体位について	1) 体位の種類、特徴 2) 活動・運動の生理学的メカニズム 体位と呼吸機能・循環血液量との関係 同一体位の有害性 廃用症候群 3) 安楽な体位	講義 GW
4	安楽な体位の工夫	1) アセスメント 2) 安楽な体位の実際 【演習】体位変換	演習
5	ベッドメイキングの 方法を学ぶⅠ	ベッドメイキングの実施	演習
6	ベッドメイキングの 方法を学ぶⅡ	臥床患者のシーツ交換(デモンストレーション)	
7	シーツ交換	シーツ交換の実際(ボディメカニクス、体位変換含む) 【演習】臥床患者のシーツ交換 ※自己学習:廃用症候群	演習 (技術チェック)
8			
9	身体の清潔の意義と アセスメント	1) 身体の清潔の意義(生理的・心理的・社会的意義) 2) 洗剤の作用 3) 身体の清潔ニーズのアセスメント 4) 清潔援助方法の選択 清潔援助の種類 目的と適応 清潔援助が身体に及ぼす影響 清潔援助方法の選択 ①入浴、シャワー浴 ②全身清拭、部分清拭 ③洗髪	講義 GW
10	部分浴、寝衣交換	部分浴(足浴) 【演習】足浴	演習
11		寝衣交換の実際 【演習】臥床患者の寝衣交換 全身清拭(デモンストレーション)	
12	全身清拭	全身清拭の実際 【演習】臥床患者の全身清拭	演習
13			
14	洗髪	洗髪の実際 【演習】臥床患者の洗髪	演習
15			

発展科目: 看護学の土台となり、看護学の実習や、卒業後の臨床で、看護実践の基礎となる。
テキスト: 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護技術 プラクティス 学研
成績評価: 終講時学科試(30%)、実技試験(70%) : 「臥床患者の全身清拭」
出席状況 受講態度 技術練習状況を加味します

科目名 生活を整えるー2 (食事・排泄)
 授業科目の区分 専門科目 I 基礎看護学
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要

健康と栄養の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的な援助技術を習得できる。排泄の意義を理解し、基本的な援助技術を習得できる。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	健康な食生活 栄養と食事の基礎知識	1) 栄養・食事の意義 2) 健康と食生活 3) 食欲のメカニズムと影響する因子 4) 栄養素と栄養所要量 5) 消化と吸収	講義
2	栄養と食事のアセスメント	1) 栄養所要量と摂取量 2) 栄養状態のアセスメント 3) 食事行動のアセスメント	講義
3	食事のアセスメントと援助方法	1) 食事摂取行動とアセスメント 2) 食事援助の方法	講義
4	食事援助の実際	1) 食事援助の方法とケア	演習
5	口腔の清潔援助	1) 口腔ケア	講義・演習
6	排泄援助を受ける対象の理解 排泄の基本援助の基礎知識	1) 排泄援助を受ける対象の理解 2) 排泄行動の自立と阻害する因子 3) 排泄に影響をおよぼす因子 4) 自然排泄を阻害する因子 5) 自然な排泄を促す援助	講義
7	排泄障害(排便)とその援助 排泄障害(排尿)とその援助	1) 排便障害の種類 ①便秘 ②下痢 2) 排便障害に対する援助 1) 排尿障害の種類 ①頻尿 ②尿閉 ③尿失禁	講義
8	排尿・排便の援助方法の選択	1) 床上での排便・排尿の援助 ①便器・尿器の当て方	講義
9	治療的排泄援助技術(浣腸)についての理解 治療的排泄援助技術(導尿)についての理解	1) 浣腸の適応と種類 2) 目的・作用 3) 浣腸の管理 1) 導尿の適応と種類 2) 一時的導尿の方法 3) 持続的導尿の管理	講義
10.11	浣腸の実際	1) 浣腸	演習
12.13	排泄ケア 移動の援助	1) 陰部洗浄 1) 活動・運動のアセスメント 2) 移動・移送の実際 車椅子への移乗・移送 ストレッチャー(ベッド)への移乗・移送	講義 演習
14.15	排泄ケアの実際 導尿の実際	1) 導尿	演習

発展科目: 専門分野Ⅱおよび臨地実習等、栄養摂取、消化吸収・排泄障害のある対象の看護に関する幅広い領域に発展する

テキスト: 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 学研 看護技術プラクティス
 資料

成績評価: 講義、演習、参加度、および筆記試験で総合評価とする

科目名 臨床看護総論

授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学

履修対象 1年次 後期

単位 2単位 60 時間

担当講師 専任教師 2名 非常勤講師 2名

授業概要 学んだ知識・技術を統合し,応用するプロセスを学ぶ。
基本的な問題解決過程の習得を目指す。
1年次の統合技術演習として位置づける。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 ～ 8	1. 臨床看護とは 2. 健康状態の経過に基づく看護 3. 主要な症状を示す対象者への看護 4. 治療・処置を受ける対象への看護	臨床とは 臨床看護とは 1) 急性期における看護 2) 慢性期における看護 3) リハビリテーション期における看護 4) 終末期における看護 1) 痛みを経験するということ 2) 呼吸が障害されるということ 3) 循環が障害されるということ 1) 輸液療法と看護 2) 安静療法と看護	講義 及び 事例検討 (演習)
9	主要症状を示す対象者への看護	排尿障害の患者の看護 (膀胱留置カテーテル挿入患者の看護)	講義
10 ～ 16	治療・処置を受けている 患者の看護	手術療法を必要とする患者の看護 術前看護: 術前心理と具体的援助 術後看護 ①手術後の回復を促進するための看護 ②術後合併症の発生機序と予防・対応 ③術後 回復期に向けた援助	講義 演習
17 ～ 18	「対象を理解しよう」	事例(データベース)の情報から患者を理解・ イメージ化し、看護を考える 事例① 胃癌 胃切除術後 事例② 変形性股関節症術後 事例③ 前立腺癌 術後 事例④ 脳梗塞 回復期 事例⑤ 肺癌 化学療法・放射線療法中 事例⑥ 多発性骨髄腫 化学療法中 事例⑦ 慢性心不全の急性増悪 (事例は変更する可能性あり)	演習

回	項目	内容	方法
19	情報を整理しよう	各自で考えてきた情報の整理・思考の過程を持ち	個人ワーク
20	援助計画を立案してみよう	寄り、GWで深める。援助計画まで、立案する。	GW
21	考えた援助を実施してみよう	事例①～⑧の患者に対し、考えた援助を実施する	演習
22		実施した結果どうであったか、考える。	
23	対象理解演習のまとめ		GW・発表
24	看護過程とは	問題解決過程とは	講義 演習
25		看護過程のステップ	
26		情報収集、情報の整理	
27		分析、アセスメント	
28		全体像の描写:思考の過程、構造図	
29		看護問題抽出、看護目標、計画立案	
30		実施、評価	

発展科目： 各看護学の講義及び実習全てにつながっている

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
配布資料

成績評価： 講義終了後にテスト
個人で行う演習課題と取り組みの態度、グループワーク参加度、
授業態度、出席状態など

コメント： 既習の知識を関連させ、看護を展開していきましょう

科目名 診療の補助技術
 授業科目の区分 専門分野 I 基礎看護学
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要

看護師は、保健師助産師看護師法第5条に示されている「診療の補助業務」として、その行為に対し法的根拠を与えられている。近代、医療が高度化し、医療業務はより複雑化、繁雑化している。そのような中、医療者には医療事故防止対策の強化が強く求められている。医療行為、特に治療・処置には危険が伴うこと、また技術がより進歩することでリスクが高くなることは事実である。看護師が、診療行為に伴う法的立場をふまえて医師の診療の補助を行っていることを認識し、患者が安全・安楽に診療が受けられるように援助する技術の基本と倫理的な態度について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 診療の補助とは 2. 診療の過程	1) 医療を取り巻く環境と医療者に求められているニーズ 2) 診察における看護の役割 診察に過程と診察時の援助	講義
2		診療における医師・看護師に役割を考える	ロールプレイ
3 4	3. 薬物療法(与薬)について	1) 与薬の意義・目的・法的根拠・ 2) 与薬の基礎知識 3) 薬物療法における看護師の役割 4) 与薬経路とその特徴	講義
5 6	4. 各種与薬法の手順と看護 5. 薬物療法における看護師の質の保証と安全管理	①経口与薬法 ②口腔内与薬法 ③直腸内与薬法 ④点眼法 ⑤点鼻法 ⑥点耳法 ⑦吸入法 ⑧塗布法 ⑨貼付法 1) 感染予防 2) リスクマネジメント	GW発表 ロールプレイ 講義
7	5. 注射法とは	1) 注射法とは 2) 注射法で使用する物品 3) 注射法の種類と特徴 4) 注射法の合併症	講義
8	6. 血管外注射	1) 血管外注射 (皮下注射、皮内注射、筋肉内注射)	講義
9	7. 静脈内注射	1) 静脈内注射 2) 輸液療法 輸液の管理	講義
10	8. 採血	1) 輸液療法 輸液ポンプ、シリンジポンプ 2) 採血	講義
11	9. 注射の実際	1) 薬剤の準備	演習
12.13	10. 筋肉内注射の実際	1) デモンストレーション 2) 筋肉内注射 (注射の準備、注射部位の選定、実施、後片付け)	演習
14.15	11. 採血(静脈血)	1) デモンストレーション 2) 採血 (採血の準備、採血部位の選定、実施、後片付け)	演習

発展科目： 成人看護学、在宅看護論、老年看護学の講義、および臨地実習等、栄養摂取、消化吸収・排泄障害のある対象の看護に関する幅広い領域に発展する

テキスト： メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学 ③ 基礎看護技術
 学研 看護技術プラクティス、資料

成績評価： 筆記試験

科目名	EBNの実践
授業科目の区分	専門分野 I 基礎看護学
履修対象	3年次前期
単位	1単位30時間
担当講師	非常勤講師
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. Evidence-Based Nursing (EBN) の考え方が出現してきた背景とその意義について理解する。 2. Evidenceの使い方について理解する。 Evidenceを使う際に必要な文献critiqueの方法について理解する。 3. Evidenceの作り方について理解する。 Evidenceを作るためのプロセス(研究計画の立案、データ収集、分析評価、論文作成)について理解する。 4. 研究における倫理について理解し、研究者の行うべきことがらを理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1・2	EBN概説 Evidenceの作り方	<ul style="list-style-type: none"> •EBNの考え方が出現してきた背景とその意義 •Evidenceの水準 •EBNの手順 •Evidenceを作るための手法(量的・質的・ミックス法) •研究と倫理 	
3・4	Evidenceの使い方 文献critique	<ul style="list-style-type: none"> •文献検索(医中誌、MEDLINE)、文献収集方法 •文献critiqueとは •文献critiqueの方法 •文献critiqueの実際 	PCを用いた演習 既存の文献を用いて
5	研究計画書について	<ul style="list-style-type: none"> •研究疑問から研究課題(テーマの絞り込み) •研究方法の選択 •研究計画書の例 	
6～11	研究計画書の作成	•5人1組全8グループに分かれて実施	グループワーク
12・13	研究計画書の発表とcritique	•全8グループの発表と他グループからのcritique	
14・15	まとめ	•テキストをもとに	

発展科目：

成績評価： グループワークへの参加度ならびに自己評価をもとに評価する。

2021.3改訂